

## 復興支援フォーラムニュース No.33

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html> )

<事務連絡先 今野順夫([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com)) 中井勝己(024-548-8313)>

### 葛尾村における避難と復興に向けた取組み

金谷喜一 (葛尾村副村長)

#### I 避難の経緯

- 3月11日 15:00 葛尾村災害対策本部設置  
15:23 消防団各分団幹部へ出動要請  
16:00 消防団へ被災調査依頼  
17:00 一人暮らし高齢者・深夜帰宅者のための避難所開設  
\*福島県防災無線が機能しなくなり、県から情報が入らなくなる。
- 3月12日 \*NTT回線、携帯電話回線が通信途絶する。  
16:30 葛尾村議会全員協議会開催
- 3月13日 15:00 静岡県のモニタリングポストが到着設置され役場周辺の線量が計れるようになる(計測値0.038マイクロシーベルト)

#### <村長から職員への通知(3月13日文書通知)抜粋>

##### 職員の対応

- ・避難勧告が出た場合、住民避難を優先させ、避難マニュアル(別添 国民保護法による避難マニュアルを村外避難を想定した内容に変更)により避難を実施します。
- ・このことから、家族の避難については、事前に家族の中で十分に協議し、避難先を確認しておいて下さい。避難のあてのない方は、村が指定する避難所に避難することを家族の中で確認しておいて下さい。
- ・職員は、住民の避難が確認されてから避難しますので家族と一緒に避難をしたい職員は、自家用車で家族を役場に待機させて、最終避難をすることになりますのでよろしくお願いします。(避難できる準備を整えてください。)
- ・委託職員については、一般住民として行動することとして、避難勧告がでたら速やかに避難するよう所属長から今日中に伝達して下さい。

- 3月14日 \*駐在所が役場に飛び込んできて「3号機が爆発した屋内退避させてください」と叫ぶ。直ちに防災無線、IP告知放送で村内に知らせる(サイレン吹鳴)。

21:15 村長が避難を決断

22:15に役場前出発⇒あづま総合運動公園へ(防災無線・IP告知放送)

23:50 避難者全員612名あづま総合運動公園到着。

- 3月15日 13:30 葛尾村バス5台・福島交通貸切1台 会津坂下町

17:00 会津坂下町到着

- 4月5日 \*2次避難開始(ホテル、旅館へ)

4月21日 \*旧法務局会津坂下出張所に葛尾村会津坂下出張所開設

6月26日 \*三春町仮設住宅へ入居始まる（三春ダム周辺10団地）

8月1日 \*葛尾村三春出張所開設

8月10日 \*葛尾村会津坂下出張所閉鎖

\*避難状況（8月31日） 避難者数 1,526名

県外 133名

県内 1,393名

（自主避難34名、借り上げ住宅446名、仮設住宅913名）

## II 復興への取組

\*葛尾村復興計画策定経緯

H23.12.07 平成23年度第1回復興委員会

H24.2.15 復興ビジョン答申

H24.11.24 葛尾村復興計画（第一次）答申

## III 葛尾村復興計画（第1次 平成24年12月）

\*計画期間

短期期間（24年度～25年度）（2年間）

本格的な除染事業、災害復旧、生活基盤の復旧期間

中期計画（24年度～28年度）（5年間）

本格的な復興を遂げることを目指す期間

長期期間（24年度～33年度）（10年間）

葛尾村が発展し、新しい葛尾村を作り上げる。

\*葛尾村復興計画の方針と施策

<基本方針>

- ◆村民の将来にわたっての安全・安心を最優先する
- ◆避難している方への支援を続け、村民全員の帰還をめざす
- ◆村のさらなる発展をめざし、村民一体となった復興をめざす

<主要施策>

1. 避難生活の支援（一部実施中）
2. 葛尾村の復旧（除染等放射線対策）
3. 葛尾村の復旧（インフラ整備）
4. 葛尾村の復旧（災害対策）
5. 葛尾村の復旧（子育てやコミュニティ強化）
6. 葛尾村の復興・発展（人づくり・文化）
7. 葛尾村の復興・発展（インフラ整備強化、産業育成）

## 「ちょっと一息」

葛尾村と関係する皆様との絆から生まれて曲「葛尾川」

作詞：矢口洋子（福島市） 補作詞：三本杉祐輝（双葉町）

作曲：江川博幸（会津坂下町）

第30回フォーラム（「放射線のリスクをめぐるコミュニケーション」／村山武彦氏）で寄せられたご意見等。（2013. 2. 7）

★リスクコミュニケーションの重要性は、ある程度理解できましたが、考え方がまちまちである住民に対し、情報の共有化をいかにして図るか等、コミュニケーションの難しさを感じました。（Y. S）

★新たな視点からの話（内容）で、除染に関する問い合わせの回答に反映させていただきます。参考になりました。（F. A）

★「崩壊」した組織をどう修復するのか、そこが一つの復興なのかと感じました。ありがとうございました。（T. T）

★大変興味深く、拝聴いたしました。どこまで除染するか、その程度と整合的な都市計画の策定。こうした切り口で考えることの必要性は、ご指摘の通りと思います。（M. N）

★ていねいなお話ありがとうございました。「円滑さ」のためにコミュニケーションをするのか、誰かの「理想状況」をつくるためなのか、それとも「公正な」社会のためなのか、それを見据えようとするリテラシー・視点を持つことが、もしくは開示することが、コミュニケーション方略の中にも含まれているのかどうか、ふと考えました。（M. K）

★コミュニケーションの本質的な課題をよく理解できました。（K. F）

★リスクコミュニケーションをどう現地で展開できるか。村山さんには感謝します。これからも福島に関わってください！（H. S）

★村山先生に質問したいことがあったのですが、専門が理工系にもかかわらず「リスク管理」ということなので、とまどい質問をおさえました。お話を聞いて1つ思ったのは、リスク一般というよりは、問題の本質は、「放射線リスク」の特異性にあるのではないかと思います。放射線被害が他のリスクと違っているのは、どなたかがおっしゃったように、人体への影響がわからない、村山先生のいうように線量によって、地域によって、さらに考え方によってコミュニティが分断されていく、それがいつまで続くか分からないし、社会的差別や風評被害もいつまで続くかわからない、というようなどころにあるのではないのでしょうか。根本的には、真実を知るためにどうするか、そのコミュニケーションがカナメをなすのではないかと思います。この議論は、今後もますます続くし、大事になっていると思います。（K. S）

★放射性物質のリスクは、分からないことだらけですが、福島で生きていく以上、リスクと向き合わざるを得ないので、安心を得ることは困難でも、不安を少しでも取り除くことができればと思って、活動していきたいと思います。（H. Y）

★福島市役所に勤務している友人から、除染について福島市は進んでいると聞いていましたが、今日のお話で郡山市の除染が、思っていた以上遅れているのに驚きました。一方で、当初、郡山市は除染に真っ先に取り組んでたことが、マスコミに大きく取り上げられた影響もあり、福島市民も含めて、福島市は除染が遅れているというイメージが出来上がっていて、市民は不安を抱えている人も少なくありません。広報の問題もあるとは思いますが、必要とする情報を適切に伝えることがリスクコミュニケーションの基本で、そこがいまだにできていないが残念だと思います。(K.Y)

★組織の崩壊を、「すでに出ている影響」として、健康影響と同等に位置付けている点が、新鮮でした。(S.N)

★リスクコミュニケーションも含めて、総合的なイメージが少しですが、分かったように思います。「リスクとリスクを天秤にかける」。面白い視点でした。(A.O)

★わからないことが多くあり、それらを知ることができました。いろいろの人たちの意見を聞き、それを活かして、自分も福島の復興に携わって行きたいと、改めて思いました。また、自分の将来が大きく広がった気がします。また、ぜひ参加したいです。(K.S)

★率直に申して期待はずれであった。住民として新たな知見を得たとはいえない。問題の難しさ、無数の多様な論点の所在を再確認しただけであった。あとの議論は、これまでにない広がりがあった面白かった。(S.I)

★リスクコミュニケーションは、緊急時・非常時になってから行うのでは、ちょっと遅いのではと感じる。平時から理解していくことが重要と、今日の話聞いて思いました。(Y.I)

★リスクに対する考え方は、人人それぞれで集まり暮らす人達で、方法を発見するしかないと思いました。(T.S)

=====  
**【予告】**  
第32回 「ふくしま復興支援フォーラム」(2013年3月7日(木) 18時30分～)  
「震災復興における高校教育の現状と課題」  
齋藤 毅 氏(福島北高校教諭)  
会場:「AOZ」 視聴覚室  
=====